

一般教養問題

I 以下の文を読み、それぞれの問いに答えなさい。

私たち辺境人にとって、外来の制度文物はキチヨウな資源^Aです。一粒も無駄にすることが許されない。それゆえ、最大限の開放性を以て外来の知見¹を受け容れなければならない。けれども、外来のものの中には、受け容れがたいもの、受け容れることによって私たちが損なわれるものが含まれています。それを無意識にカイヒ^Bする能力にサポートされていなければ、無防備なほどの開放性は確保できない。

資源が豊かな環境であれば、そのような予備的な能力は必ずしも要求されなくてよい。目の前にあるものを気分次第で取る。不要だと思えば捨てる。捨てたものが有用であることに後から気づけば、また次の機会に捨てる。「その有用性がわからないもの」について、別に過剰に開放的になってみせる必要もない。資源が豊かであるというのはそういうことです。そして、私たちはそうではない。

^A文化資源は中華文明圏から取り入れなければならないということが辺境の条件であった。ですから「その有用性がわからないもの」について、その有用性や意義を先駆的に知る能力を開発することが私たちにとっての民族的キユム^Cだった。

私は別にそれほどキミヨウな話をしてはおりません。資源の貧しい環境を生き延びるために人間が「その有用性や意味が現時点ではわからないもの」の有用性や意味を先駆的に知る能力を発達させるのは類的にはごく合理的なふるまいだからです。

このような能力を選択的に開発する人のことをクロード・レヴィ・ストロースは「ブリコロール」(bricoleur)と呼びました。「ありあわせのもの」しかない、限定された資源のうちで生活している野生の人々を指してこの言葉を使ったのです。「ブリコロール」とは辞書的には「便利屋」のことです。そこらにあるありあわせの道具とありあわせの材料で器用に棚を作ったり犬小屋を造ったりする人のことをフランス語でそう呼びます。

「野生の人」は本質的にブリコロールです。彼らの世界は資源的には閉じられています。「ありもの」しか使えない。通販で取り寄せたり、コンビニで買い足したりすることができない。それゆえ、ブリコロールたちは「道具」の汎用性、それが蔵²している潜在可能性につよい関心を示します。(中略)

野生の人々には固有の知があります。それはあらかじめ立てられた計画に基づいて必要な道具や素材をてきぱきと集める能力ではありません。「ありもの」の「使い回し」だけで未来の需要に備える能力です。

ジャングルを歩いていると目の前にさまざまなモノが出現してきます。それは植物であったり、動物であったり、無機物であったり、有機物であったり、人工のモノであったり、自然物であったりします。その中のあるものを前にしたときに「ブリコロール」は立ち止まります。そして、「こんなものでもいつか何かの役に立つかもしれない」と言って、背中の合切袋³に放り込む。

なぜ「いつか何かの役に立つかもしれない」ということがわかるのか。ジャングルの中に、彼の視野の範囲には「その用途や実用性がわからないもの」がそれこそ無数にあったはずですが、どうして、「その用途や意義が知れぬ」無数のものの中で、とりわけ「それが彼の関心を惹きつけたのでしょうか」

先駆的にその有用性を知っていたという言い方でしかこの行動は説明ができません。そして、実際に彼は「いつか何かの役に立つかもしれない」と思って拾っておいたものについて、あとになって「ああ、これを取っておいてよかった」と嘆息³したという経験を繰り返してきた。そういう反復を通じてしか、そのような能力は強化されませんから。

人間には「^Eどうしてよいかわからないときに、どうしてよいかわかる」能力が潜在的に備わっています。その能力は資源が潤沢で安全な環境では発達しない。「^Eどうしてよいかわからない」ときにでも、「どうすればいいか」を訊きに行く人がいたり、必要なものを買って足しに行けるなら、先駆的に知る必要はない。けれども、資源が乏しい環境や、失敗したときに「リセット」することが許されないタイトな環境においては、「^Eどうしてよいかわからないときにも適切にふるまう」ことが生き延びるために必須のものになる。

「学び」という営みは、それを学ぶことの意味や実用性についてまだ知らない状態で、それにもかかわらず、これを学ぶことが、いざいざ生き延びる上で、死活的に重要な役割を果たすことがあるだろうと、先駆的に確信することから始まります。「学び」はそこから始まりません。私たちはこれから学ぶことの意味や有用性を、学び始める時点では言い表すことができない。それを言い表す言葉や価値観をまだ知らない。その「まだ知らない」ということがそれを学ばなければならない当の理由なのです。そういうふうな順逆の狂った仕方では「学び」は構造化されています。

「学ぶ力」というのは、あるいは「学ぶ意欲(インセンティブ)」というのには、「これを勉強すると、こういう『いいこと』がある」という報酬の約束によってかたちづけられるものではありません。その点で、私たちの国の教育行政官や教育論者のほとんどは深刻な勘違いを犯しています。子どもたちに、「^E学ぶと得られるいいこと」を、学びに先立って一覽的に開示することで学びへのインセンティブが高まるだろうと彼らの多くは考えていますが、人間というのはそんな単純なものではありません。「学ぶ力」「^E学びを発動させる力」はそのような数値的・外形的なベネフィットに反応するものではありません。

「学ぶ力」とは「先駆的に知る力」のことです。自分にとって、それが死活的に重要であることをいかなる論拠によっても証明できないにもかかわらず、確信できる力のことです。ですから、もし「いいこと」の一覽表を示さなければ学ぶ気が起こらない、報酬の確証が与えられなければ学ぶ気が起こらないという子どもがいたら、その子どもにおいてはこの「先駆的に知る力」は衰微しているといふこととなります。私たちの時代に至って、日本人の「学ぶ力」(それが「学力」ということの本義ですが)がレック^Eし続けているのは、「先

駆的に知る力」を開発することの重要性を私たちが久しく閑却かんきやくしたからです。

今の子どもたちは、「値札の貼られているものだけを注視し、値札が貼られていないものは無視する」ように教えられています。その上で、自分の手持ちの「貨幣」で買えるもつとも「値の高いもの」を探しだすように命じられている。幼児期からそのような「賢い買い物」のための訓練5を施された子どもたちの中では、「先駆的に知る力」はおそらく萌芽ほぎ状態のうちに摘まれてしまうでしょう。「値札がついていないものは商品ではない」と教えられてきた子どもたちが「今はその意味や有用性が表示されていないものの意味や有用性を先駆的に知る力」を発達させられるはずがない。

けれども、この力は資源の乏しい環境の中で（ということとは、人類が経験してきた全歴史のほとんどにおいて）生き延びるために不可欠の能力だったのです。この能力を私たち列島住民もまた必須の資質として選択的に開発してきました。狭隘かきうがいで資源に乏しいこの極東の島国が大国強国に伍して生き延びるためには、「学ぶ」力を最大化する以外になかった。「学ぶ」力こそは日本の最大の国力でした。ほとんどそれだけが私たちの国を支えてきた。ですから、「学ぶ」力を失った日本人には未来がないと私は思います。現代日本の国民的危機は「学ぶ」力の喪失、つまり辺境の、伝統の、喪失、なのだとは考えています。

（内田樹『日本辺境論』より）

問1 傍線1～5の漢字の読みがなをひらがなで書きなさい。

問2 傍線A～Eのカタカナを漢字で書きなさい。

問3 傍線部A「文化資源は中華文明圏から取り入れなければならない」ということが辺境の条件であった」とあるが、このことと直接関係しない歴史的事件をa～gから二つ選び、符合で答えなさい。

a 鉄砲伝来 b 遣隋使派遣 c 漢字伝来 d 遣唐使派遣 e 朝鮮通信使 f 黒船来航 g 仏教伝来

問4 傍線部イ「いつか何かの役に立つかもしれない」と同じ意味の漢字五文字を文中から抜き出して書きなさい。

問5 傍線部オ「ベネフィット」の意味として正しいものを以下から一つ選び、符号で答えなさい。

a 目標 b 利益 c 見積もり d 水準 e 成功

問6 傍線部力「狭隘で資源に乏しいこの極東の島国」ということと関係の薄い海をa～fから二つ選び、符号で答えなさい。

a オホーツク海 b 太平洋 c 大西洋 d 日本海 e インド洋 f 東シナ海

問7 傍線部ウ「先駆的にその有用性を知っていたという言い方でしかこの行動は説明が付きません」とあるが、その理由は何か。語群a～fの中からア～ウの空欄に適切な語句を選び、符合で答えなさい。

野生の人々にとって、目の前には何の目的に使うのかという「ア」やどんな価値があるのかという「イ」の有無、また「ウ」があるか否かがわからないものが無数にあるはずなのに、それにもかかわらず、結果として「ア」や「イ」や「ウ」があるものを選び出すことができている、資源が乏しい環境の中でも生き延びることができているため。

「 a 実用性 b 用途 c 簡易性 d 意義 e 利潤 f 希少性 」

問8 筆者が述べる「学ぶ力」を備えた人は、学ぶ前にどのような状態にあるか。以下の項目のうち、本文の内容と合致するものに○、矛盾するものに×をつけなさい。

- a これから学ぶべきことの内容を先駆的によく知っている。
- b これから学ぶべきことの内容はよく知らない。
- c それを学ぶべきであるかどうか先駆的に分かる。
- d それを学ぶべきであるかどうかすでに確定された価値判断にしたがう。
- e それを学ぶことで何が得られるかを明確に言い表すことができる。
- f それを学ぶことで何が得られるかは明確には言い表せない。

問9 傍線部工「どうしてよいかわからないときに、どうしてよいかわかる」とあるが、あなたのこれまでの体験から、適切な具体例を挙げなさい（二〇〇字以内）。

II それぞれの問いに答えなさい。

問1 次の1～4のことばの意味として適切なものを、それぞれア～エの選択肢から一つ選び、符号で答えなさい。

- 1 付け焼き刃
ア しっかりと根付かないこと イ 平凡で面白くないこと
ウ その場しのぎであること エ 柔らかさに欠けること
- 2 唐突な
ア だしぬけの イ あてずっぽうの ウ 当たり前の エ 思い切った
のみならず
- 3 それだけでなく イ それと同じように ウ それとは異なり エ それを除いて
おぼろげな
- 4 はずつきりとした イ 古めかしい ウ ほんやりとした エ 静けさに満ちた

問2 次の1～6の画家の作品を下のa～iから選び、符合で答えなさい。

- 1 マティス a アヴィニヨンの娘たち f ムーラン・ルージユにて
- 2 ムンク b タヒチの女 g ひまわり
- 3 ロートレック c 記憶の固執 h 落穂拾い
- 4 ダリ d 叫び i サント・ヴィクトワール山
- 5 ピカソ e ブルーノード
- 6 ゴッホ

問3 次の1～5の文に該当する語句として、最も適切なものを一つ選び、符号で答えなさい。

- 1 a～eのなかでユネスコの世界文化遺産に登録されていないもの
a 中尊寺 b 原爆ドーム c 富士山 d 浅草寺 e 岩見銀山
- 2 a～eのなかで2013年8月12日に四十一度の国内最高気温を記録した場所
a 埼玉県熊谷市 b 高知県四万十市 c 岐阜県多治見市 d 和歌山県かつらぎ町 e 山梨県甲州市
- 3 a～eのなかでユゴーの小説をもとにジャン・バル・ジャンの波乱の生涯を描いたミュージカル作品
a オペラ座の怪人 b 雨に唄えば c ラ・マンチャの男 d 屋根の上のバイオリン弾き e レ・ミゼラブル
- 4 a～eのなかで宮崎駿監督の映画「風立ちぬ」で荒井由美（松任谷由美）が歌う主題歌
a ひこうき雲 b 春よ来い c 守ってあげたい d 青春のリグレット e あの日に帰りたい
- 5 a～eのなかでエベレスト登頂の最高齢記録を保持している日本人
a 植村直己 b 石川直樹 c 野口健 d 田部井淳子 e 三浦雄一郎

問4 次の1～2の説明文の空欄に入る語句を、各語群から一つ選び、符号で答えなさい。

- 1 教育関連企業ベネッセコーポレーションが、「①」にある直島で行ってきたアート活動「ベネッセアートサイト直島」では、一九九〇年代後半から美術館の中だけでなく、島内の「②」や神社、旧医院など、暮らしに近い場所でも展示を行う「家プロジェクト」が実施され、近年では周辺の島も含めたさらに広いエリアで展開されるようになっていく。

- ① 「a 伊豆七島 b 沖縄諸島 c 瀬戸内海」
② 「a 古民家 b 博物館 c ホテル」

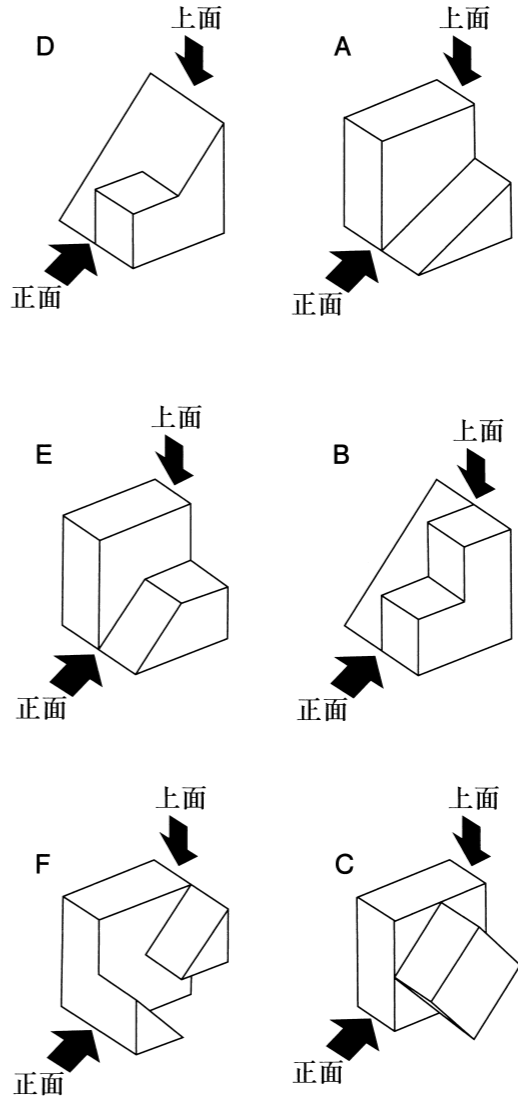
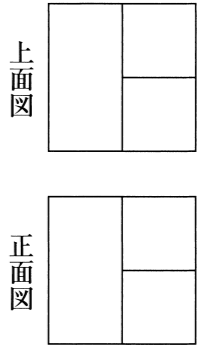
- 2 横浜市で二〇〇一年に第一回が開催され、その後「①」開催されている、現代アートの国際展「横浜トリエンナーレ」では、このイベントのシンボリックな施設であり歴史的建築物として有名な「②」をはじめとして、様々な文化施設を会場として使用し、横浜のまちづくりにも寄与することを目指している。

- ① 「a 毎年 b 三年に一回 c 二年に一回」
② 「a 県庁ビル b 横浜赤レンガ倉庫 c グラバー邸」

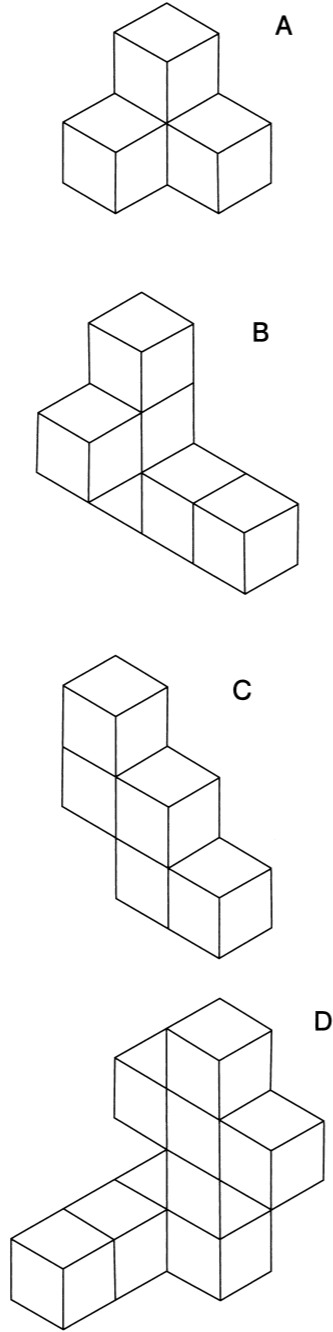
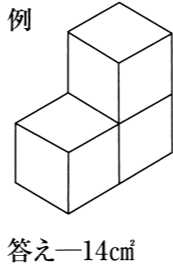


III それぞれの問いに答えなさい。

問1 二つの方向から見たときに、次のような上面図と正面図が成り立つ立体を、A～Fの中からすべて選んで、符号で答えなさい。



問2 一辺の長さが1cmの立方体を積み重ねた立体があります。A～Dの立方体の表面積を例にならって答えなさい。ただし、見取り図では見えない部分は水平、垂直な平面で凸凹はありません。



問3 左のA～Cのように、正方形の紙をいったん四つ折りにしてから黒い部分を切り抜き、広げたときの穴の形を、フリーハンドで描きなさい。

